夕刊 磐城新聞
七月十六日發行
（日曜祭日翌日休刊）
東京振替一〇八〇・五六五五番

天氣豫報 小名濱測候所發表
今晩も明日も北東の風曇勝雨模様

平驛を中心とする ハイキングコース（六）

平 華生

Fコース ―勿來の關―

その昔關所の役人が六角棒を持つて通行人の手形改めをして威壓を逞せしめたと云ふ關東奥州の境にあるが勿來の關である。

吹く風を勿來の關と思へども路もせに散る山櫻かな

の源義家の歌と共に餘りにも有名であるこの『勿來の關』は別の名を『菊多の關』とも云つて元明天皇の和銅年間に創置されたものださうだ。然し今一説には承治以前にこの關所が設けられてあつたとも云はれ『大政官符』には

勅准長門勘過白河菊多劍準右得陸奥解、偽候、私記、鑑刻以來子今四百歳矣

と記されてありそれより察するに元明朝より猶二百七八十年前と云ふことになる。『勿來』と云ふ名稱の故事來歴はこの地が專ら蝦夷の南下を防ぐ關塞であつた處から起つたことは疑ないところで『草越』『草來』『名古谷』等とも記されて居りその廢關された年代は不詳であるが寛治三年の晩春に源義家が奥州を平定して歸洛の折この關に駒を止め遙か太洋の波浪を臨み見ながら征衣に汚れた鎧の袖に懷舊の情やるせなく『吹く風を……』を詠んだ頃は既に廢墟となり斷礎荒涼の閭に落莫たる…想像出來るのである。今この關址―太平洋に臨む丘上に建てば名ばかりの二基の小石碑と若干の山櫻、殘つて居る昔の面影を想ふに過ぎ…。然し…せては返す波頭、去來する漁船の姿

飛び去る海鳥等此處から眺める海の景色は仲々に捨て難い。先般、三笠宮殿下の御台覧を得たのを好機とし里人相謀し此處に義家神社を建立し又山櫻を増植して公園となしこの奥州三關の一たる勿來の關の復興に努めることになつた。又關址下の海邊殿下の地にも一大大衆向のホテルを建て遊客の便をはかる計畫が出來上つて居るから之が竣功の上は益々夏秋冬皆々杖曳く入殖へることと思ふ。此關址へ來るには平から勿來まで汽車に乗り同驛から約一粁だから歩るくといゝ。關址で暫く懷古に耽つたら海岸へ下りて白砂青松の如き松川磯に出て、茨城福島の縣境標のあるトンネルをくゞると平潟灣に出る。此邊は波が靜かで水がとても綺麗の上に遠淺だから海水浴にも好適だ。後背には藥師堂があり右手の小高い山の上には縣社八幡神社がある。この境内から見渡す平潟灣の景色がまた素晴らしく美しい。又暫く歩を進めると五浦に出る。此處には日本畫の巨匠横山大觀の俳味に富んだ珍らしい別莊があり其の隣には吾が國美術界の先覺者故岡倉天心の書味津々たる八角堂がある何れも一瞥するの價値充分あると思ふ。この五浦はよく畫家達の畫材に取入られるだけそれだけ面白い景觀を持つ佳い場所だ。それから約三粁行くと關本驛に出る。同驛から汽車に投じて平へ歸る。このコースには山あり海あり史蹟あり傳説もあり又到る處明媚な風光の連續だから心耳を喜ばすこと多大である。歩く所も延長にして約十二粁、一日の良行旅として推奬したい（汽車賃平、勿來間四十三錢關本平間四十九錢、合計金九十二錢）

雨中探梅

小野務平

春深無復漲煙痕
衛雨來尋借樂園
花已離披人絡繹
落英含涙惱吟魂

その日〳〵

○聰明聖智にして以て人を窮せす 荀子

7月17日
△伊藤東涯歿（元文元）△江戸を東京と改稱（明治元）△帝都戒嚴令撤廢決定（昭和一一）△留保條件附で通峡條約參加（同）

梅雨の頃

須藤克二

○卒業せし子等いつしかに來ずなりてしめ〳〵と梅雨は昨日も今日も
○子らのよくきはひのぼりし柿の木のつぶさに濡れし青葉おもたく
○柿の實の梅雨に落ちたるつぶら玉今年は拾ひに來る子等もなく
○む…くさき布團にうつ〳〵宿直する夜半の雨のたく…つ…ぬ
○革製品統制の…論…部靴…クリーム塗らなぞ思ふ
○かたくなにおはさぬ父や老いませる慈顔のときにかなしかりけり
○歌の師の我にはあらぬ苦しみのときにたのしき…敢…あ…します

講談

隱密小天狗（おんみつこてんぐ）

(75) 中川雨之氏作 近藤錢氏畫

雨中の醉漢

正雪屋敷の會合は、これまでに何度もあつた。が今夜のやうに緊張した會議は初めてだつた。今夜の正雪の發表した一般方略も、幹部どころの二三を除いたら、いづれも初耳であつた。外庭に、しと〳〵…雨音を聞きながら、正雪の重々しい力の籠つた聲で、ぱつぱつと一般方略を說きすゝめるのを聽いてゐると、諸士は自づと、血沸き肉躍るの感に打たれた。

それから間もなく、柴田三郎兵衛、丸橋忠彌、金井半兵衛の三人だけが、正雪の屋敷に殘つて、他の連中は、降り頻る雨の中を、歸つたのであるが、今夜の會合…

『…〳〵事を擧げるのも近い中だ』

と、口には言はぬが、互の胸の中に、さう思つ…から、いづれも意氣軒昂の態であつた。

三郎兵衛等は、正雪を中に、俊作の事に就いて、密談を始めた。

『お聽きになりましたか、今戸の龍吉といふ目明しの殺された話を』

と、半兵衛がいふ。

『うむ聞いた、奉行所では血眼になつてゐるやうだの』

と正雪。

『それに就いて具足師惣五郎の密告があつて、殺したのは戸田俊作だといふことが知れました』

さういつた忠彌の顔を、三郎兵衛は意外の面色で見た。

『龍吉は、我々の秘密を嗅付いてゐた。その上、至つて質の惡い男で、それを材料に、藤兵衛親子を脅かし、お蝶を手に入れようとした。そこで藤兵衛が。一つには恩師先生への報恩。二つには親子の危難を免れるため惣五郎に命じて殺させようとしたのだ。すると、その夜、稲場のはづれで兩人が闘つてゐる處へ俊作が來合せ、助勢をして叩き斬つてしまつたといふことだ』

と、忠彌が、一と通りの報告をした。

正雪も忠彌も半兵衛も、豫てから俊作を同志の仲間へ引入れようとの希望を持つて居るので、これこそよい機會だと思つてゐる。ところが、老巧の柴田三郎兵衛だけは、飽迄も、俊作を幕府の隱密だと疑つて容易に賛成しない。

『迂濶りその手に乘つては大變だ、奴は、我々に接近して秘密を探らうとして殊更そんな機會を作つたのだ。あんた方は、俊作といふ男を非常に信じてお居でだが、いまに御覧なさい、拙者がきつと化の皮を引ん剝いてお目にかけるから』

三郎兵衛が、さう言切るのに對して、三人も強ひて爭ふ氣はなかつた。

正雪屋敷を辭した連中、ざあ〳〵と降る豪雨を冒して、大鋼寺から根來白入組屋敷の長い土塀外の狹い道へ差かかつた。

『どうだ、是から雉子町へでも繰込んで大いに勇氣を養はうではないか』

『賛成。大いに遣る可し』

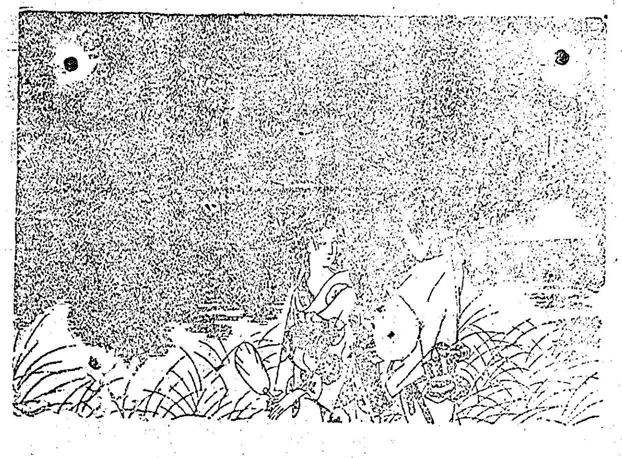
なぞ、ワイ〳〵騒ぎながら行くと、一行の前をブラ〳〵と歩いて行く者がある。紺蛇目傘を斜めに肩にかついで、尻からげをして洗足でビチャ〳〵歩て行くのだが、傘の下から刀の鐺が出てゐるので武士に違ひない。

が、この大雨の中を、格別急ぐでもなく、ヒヨロ〳〵と歩いて行く恰好は、どう見ても生酔としか思へない。

ところが此方も、正雪屋敷で酒が出たので一杯元氣

『早く歩け。往來の邪魔だ―』

短氣者の本吉新八といふ同志の中の若侍が、いきなり後から傘の頭中を掴んでグイと押退けた。

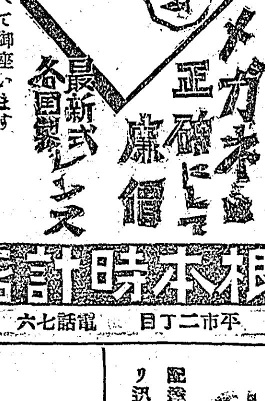


夜間診療
胃腸 性病
内科 胃腸病科 花柳病科 性病科 皮膚科 專門
（見習看護婦募集）
松村胃腸性病科醫院
（平市南町電一〇七番）

新盆の戒名入提灯
例年の通り御安く御注文に應じます
弊店の提灯は……體裁が良くて値段の最も安い事は自分で一切の製造仕上げをする事と場所が不便の爲で有ります。
平市搔槌小路
金子提灯店

暑中御伺
平みやげ 米やの最中
暑中御見舞 御中元各種折詰
高級最中 米や最中專門店

平市二丁目
あまこ自動車商會
電話六四〇番



眼鏡
メガネは正確にして廉價
最新式各國製レンズ
富豐に取揃へて御座います
（亂視用眼鏡即時調製）
◎小店員募集 十四、五才ノ者
根本時計店
平市二丁目 電話七六

旅舘 大幸舘
私は平市出身ですから特に郷里の皆様方の爲めに御便宜を圖ります
主人 比佐棟雄
東京上野驛前 下谷郵便局横通角
電話下谷(83)六七七番

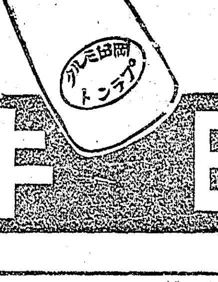
眼科一般 眼鏡檢定
重田眼科
平驛前通り 元貯蓄銀行跡
醫師 重田景治
平市田町一番地

故障の起らぬ 原口のラヂオ
ラヂオで聽こう。時局ニース
ラヂオは是非――
專門店……へ
原口無線電機株式會社代理店
古山電氣商會
平市二丁目（警察署通り）
電話（呼出）166

品質第一
電話二六八番
平牛乳舍
平市・丸品寄前

日本石油株式會社特約店
ライジングサン石油株式會社石油特約店
株式會社 關彰商店平支店
福島縣平市一丁目（電話六十一番）
本店 茨城縣下館町 電話五五、三三九番
支店 茨城縣土浦町田宿 電話六五三番
茨城縣久慈町 電話一三七番
茨城縣多賀郡關本驛前（電大津一四七番）
福島縣四倉驛前（電平潟五四番）
福島縣小名濱町 電話四八番
油槽所（常磐線泉驛前）
海岸給油所（大津港、平潟港、江名濱）
ガソリン給油所（土浦町新國道日本石油給油所 電話八二番四）

ラヂオ放送・魚は東魚
東京魚市場・白米・製氷・冷凍
タ 甘鯛
エビ マナ鰹
白魚 帆立貝柱
冷カツノコ ウニ貝燒
マル東魚
平市 四丁目 魚問屋
電五二八番
配達ハ一尾一箱ヨリ迅速ニ致マス。



低温殺菌
岡田牛乳
斷然―賣行よし
信用と品質と共に備へて
平市鎌田町
電話五一

ラヂオの故障は―放送局指定相談所へ
ラヂオの故障の多い季節になりました。
修理は測定装置技術完備の弊店へ
放送局指定ラヂオ相談所
ＨＫ受信機配給所
富永ラヂオ店
平驛前 電話四九六番

あの時機を逸したら 當分絶望だつた公會堂
今更當局の果斷を禮讃

繰延べ　無風地帶

五輪大會の中止返上、萬博の延期之等は機構が餘りに大なるものとしてその向背は地方にとつて直に深刻な影響を齎らさぬが、徹底的な消費統制其他都鄙共通の多角的變革を來した結果は手近な例としても縣廳舍新築など當分待機の姿勢に出る事となつた等各方面昨今の實例を見聞する時今や殆ど完成の域に入つた市公會堂の偉容を眺め、今更當局が敢然として今日に漕ぎつけた一大英斷を多とするの念自ら深甚なるものがある、即ち之が一朝最初から躊躇逡巡の消極態度を持し荏苒日を送つたとしたら其のうち材料の欠乏騰貴その他之が實現を阻む諸種の事情が生じて當分沙汰止みの運命に逢着したであらう事は此際極めて睹易き道理で果して何時の日にその實現を期し得たか差し當り見當がつかなかつたと云ふ外は無い、而も新裝公會堂に對して錦上更に花を添へる日本間の起工迄目睫に迫つてゐるに至つては、市が事の處理に當つて極めて果斷であつた成果に外ならず、當局の明敏と市民の幸慶と顧みて愉悅の情を禁じ得ぬものがある

大体豫期通り決行
市、郡教育會計畫の二千六百年記念事業

近頃來地方に於て着々計劃された紀元二千六百年記念事業も相當經費を要するものは當今の時節柄一時之を延期する向か多いと觀られてゐるが、之の目的から計劃實行中に在る市内各小學校の古新聞紙持ち寄り奉仕の十六ミリ映寫機購入は財源が既に豫定の半ばに達し今後は單に講堂の映寫設備を剩す程度に達してゐるので豫期通り之を遂行する事とし、尚ほ郡教育會の支配下にある郡下五十一校の事業は孝子、節婦、教育功勞者の表彰がその主なるものであり、右は同會基本金の運用により殆ど遺憾無きを期し得る見込なので彼此全部を通じ初期の事業が遂行されるものと看取される

公會堂日本間建築決る
中野氏はまた出訴か　けふ平市參事會

平市參事會は今十六日午前十時から開き公會堂日本間は三千圓を追加一萬五千圓で建設する事に決定(木造平家總坪數百六十坪竣功は今秋十月)これに伴ふ十三年度追加更正豫算を議決、中野勇吉氏提起の十二年度特別戸數割訴願結果を報告公會堂に對する寄附金等を採納散會した

中野氏の異議問題は從來通り縣參事會で『中立相立たず』との裁決あつたので從來の例に倣しこの分も行政裁判所に出訴するものと見られてゐる兎に角注目すべき根比べではある

。。。。鐵道警邏巡長募集　平市役所では縣からの依頼で目下滿州國鐵道警護總隊巡長を募つてゐる

資格は在郷陸海軍の軍曹及これと同等以上の下士官並に兵者は青年訓練又は學校敎練を修了したもの、年令二十二才以上三十二才

詳細同所に問ひ合せの上申込まれたいと

牛谷未亡人寄附

市内四丁目故伍長牛谷壽長氏未亡人すてさんは市葬の香奠返しを廢止、十六日左の如く合計百四十圓を寄附、感謝されてゐる

三十圓平市軍事後援會　各二十圓平市社會事業助成會　平市聯合軍人分會　平市四丁目青年團、平第三小學校保護者會　各十圓平市聯合青年團　國防婦人會平支部　陸軍恤兵部

詰らぬ献酬廢止
市議連先づ實行　經濟上各方面に普及か

宴席上に於ける献酬廢止は相互の煩瑣と衞生上の見地から永い間叫ばれ乍ら、飮酒歡談の醍醐味は傳統の献酬によつて生ずる=と云ふ根强い愛酒家の建前から今日尚ほ依然たる有樣であるか、今度は前記理由以外寧ろ節約緊縮の非常時意識から平市會議員關係の宴席に於て斷然之を廢止する事ゝなり昨十五日から實行したか下戸の分を共通使用の結果一人一本平均か極めて有效に用ひられ、献盃を迫られた下戸が窮餘吸ひ物椀に貴重な酒を捨る樣な不經濟も無く從來に比し半分にも滿たぬ消費量で相當陶然たる事が出來るので、之に因る料理屋の減收は幾分免れぬにせよ最も手近なこの弊習改善は漸次各方面に普及するものと觀られてゐる

湯本助役決る
町議矢吹莊司氏

湯本町では十五日の町會で後任助役を町議矢吹莊司氏に決定

老後哀し婆さん投身
子に見離されて悲觀

今曉三時頃市内長橋町地内新川に投身自殺せんとして通行人に救はれた老婆があつた

熊本郡飽託郡東山町無職吉野キイ(七六)各地の子供をたよつて轉々最近では兩島から岩手縣一の關に移つたかどこへ行つても頼む子供らにすげなくされるのに悲觀、昨夜岩沼から死に場所を求めて來平この世の別れに映畫を見物前記の始末に及んだもの、目下平署で保護し近親に引渡される筈

陣中を聽く
(191)

彼等の流行宣傳語 所謂遊擊戰の眞相
入山自治會員　須藤武一郎君(通信)

併しながら其の實績となると甚だ心細いものがある程で、現在江蘇北部に活躍して居た支那軍將領中には蔣介石に遊擊停止方を勸告したものがある位である、日本軍のため蕪湖で逮捕された支那〇〇〇戰のソ聯飛行將校の『ゲリラ戰術』支那兵に對しては適しない此の戰法は蘇聯兵だけには有效だと語つた告白でも明瞭な樣に新聞の宣傳と實際は凡そ懸け離れしたものがある即ち支那軍の遊擊隊の大部分は日本軍の兵力稀薄と見るゝ隨所々々に奇襲をやるか、反擊を受けると忽ち逃走する從つて遊擊戰の原則的目標たる敵の大軍を側背から奇襲し自軍主力部隊の作戰を有利に導く樣な奇襲作戰はとても出來ない相談である、臺北突襲と共に支那側が今次事變に於ける支那軍の二大戰勝とデマ宣傳に躍起となつた臺兒莊占領に愚鈍な支那民衆も悲喜劇に打つかるだらう又別動隊と云ふのはどんなものであるか?

抑々遊擊戰術とは、自國の領土内に敵が侵入せるを前提としてはじめて實行し得る全人民(非戰鬪員)と正規軍との共同戰術で奇襲を主とする事勿論である、之につき昨年七月十四日支那軍事委員から極秘として密文が偶々今回我軍が支那軍から獲得した軍事機密書類の中から發見されたのがあるから其の中の要點を摑み出して見れば、遊擊戰即ち革命戰術であつて中華民族抗戰の基本戰術である。

善く兵を用ゆる者は必ず兵を分て奇正の二種とし、正兵を以て敵の主力戰に當て一方奇兵を以て勝利を獲得する、敵の兵力優勢なる時は正兵は勝利の獲得容易でない故に正兵を以て敵の不備に乘じ之を擊つか、又は盤中一部の兵を以て敵の側翼を包圍する或は敵の準備整はざるに先立つて以て正面奇襲脅威を與へ、又は奇兵を以て敵の要害を制し最後の勝利を收める抵抗戰に當る奇兵は民衆の結合した時、最大の効果を發揮する所謂『秘密』『神速奇襲』とは民衆を離れては無意義となる、遊擊戰は民衆の間に生長するもので軍事的性質の外に社會的性質を兼有する云々と説明されてゐる

日露戰爭の頃
=戰死に關する追憶=
赤井嶽男

松崎布衆大尉。それは日清戰役當時成歡の戰ひだかで勇名を馳せた其の人とは違ふが、大越中佐の遙か先輩で矢張り大尉時代に何か込み入つた事情から自刄した松崎大尉の二男で、父亡き後その衣鉢を傳へて軍人を志し、中尉の時日露戰爭に出征し名譽の戰死を遂げた勇士である

先代大尉の未亡人即ち布衆大尉の母なる人――切り下げ髮の上品な人であつた――は近所の針子を預かり乍ら當時某小學に出て居た大尉の兄さんと、磐中一年修了後仙台の幼年學校に入つた季子と都合三人の子供の將來を娛しみ乍ら孜々として働いて居たのであるが最も力にした大尉の戰死に逢つては元々軍人の妻であり而してその母たる健氣な婦人とは謂ふもの丶、漸く寄る年波の掩はれぬ窶れが一時に目立つて見えたのであつた

○

村としては勿論郡として恐らく當時空前であれたらう戰死將校の葬儀は以前永らく借りて居たいまの第三小學校上川恒平訓導の生家である湯本上町の踏切り側に在つた土藏から引越して同じ上町内に新しく建てられたその家から出されて、觀音山麓の惣善寺で執行され、それが公葬であつたかどうかは三十餘年後の今日では全然記憶に殘つて居ないが式場で今の比佐陸軍參與官がその時代としては全く破格の棺前演説を試みて全會葬者を嗚咽せしめ其他弔辭は磐中陸海軍同志會代表として筆者の愚兄と婦人會側から時の磐炭事務部長生駒東一氏夫人が讀んだ位で今日の如く二十人近くも出る樣な事が無かつたのと、青年會員――自分は少年であつた――として僅か五錢の香奠を醵出したのに中宿ですしの折を貰つたのに子供乍ら痛み入つた事丈けがはつきり覺えて居る

○

その後東京朝日新聞社出版部次長としていまを時めく比佐友香君の父君友七さんが戰死した後で出征した現田村中學校教諭若松喜好君の亡父利惣次さんの凱旋を温泉神社の廣前に迎へた時、陽灼けの顏に一段緊張の色を漂はした利惣次さんが『友七君の聲は確かに討つて來ました、これがお土産です』と云つて取り出したステッセルの冠る樣な露助の防寒帽を、出迎へ人中友七さんの近親に當る比佐大尉の父君に手渡しした感激的場景に少からず少年の胸をときめかした事があつた、

。。。。平市土木委員會　十八日午後一時から開き過般の水害個所竝に罹地內復舊工事に關し協議、終つて中鹽、四波、鯨岡、幕の內、大室各區長と懇談

物價表示協議
あす平署で

平署では本縣物價標準價格の決定に伴つてこれが違反取締と販賣價格表示の徹底を期するため十七日午後一時から同署會議室に市役所係員、區長、商業關係組合代表五十餘名を招いて懇談する

磐東銀行株主總會

濱通り唯一の本店銀行たる植田町磐東銀行では二十五日午前九時から株主總會を開き、今年度上半期營業報告書、貸借對照表、財產目錄、損益計算書の承認及び利益金處分を附議するが今期成績は次の通りである、

四千五百六十圓七拾壹錢當期純益金　金七百圓也退職給與基金戾入　金九千六百六拾貳圓拾壹錢前期繰越金　金壹萬四千九百貳拾貳圓八拾貳錢合計當期利益金

之を處分すること左の如し

一金六百圓也法定準備金
一金貳千圓也建築積立金
一金五百圓也退職給與基金
一金壹千七百七拾圓也(年貳分四厘)株主配當金
一金五拾貳圓八拾貳錢後期繰越金

常銀非常時型。。。。

行員全部イガグリ　常陽銀行平支店長の中山さん『頭も統制しなくちやア非常時は克服されんよ』とばかり緊褌一番。行員二十餘名にイガグリを勵行させるべく鈴木次長と相談一決此程綺麗に頭を坊主にして曰く『國策に順應して靴洋服は節約してゐるがこんどは頭だ徹頭徹尾やり通さなくちやネ……』

夏の夜の景物
お祭りにも事變色　今年もあと十日で盆月

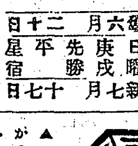
夏の夜空を彩る煙火の美しさよ!地方名物の夏祭りは例年の如く内郷村一の矢神社を皮切りに野趣豐かな情緒の幕が下されて以來次ぎ〜〜と催されいまが丁度眞最中のやうであるがこゝも時局の影がさして催しものには例年程の賑かさは見られない反對に武運長久祈願の眞面目さは至る處極めて濃厚で餘興も事變ニュースや軍國浪花節等々。非常時意識强調のものばかりだ

夏祭りにつれて愈よ近くなる盂盆の前奏たる名物七夕祭も今年は一体どんな計畫によつて催されるか?非常時型のお盆が過ぎると今度は盂二十日夜の鎌田の燈籠流しだがこれも未だ決つては居らず戰歿勇士の慰靈祭を兼ねてさゝやかに行はんとの意見もあるが何れ地元青年團の總會で決定することになつてゐる

。。。。。立憲養成會講演　立憲養成會では二十一日午後六時四倉町四倉座、二十二日午後六時平第三小學校に本部田中代議士、齋藤石城支部長らを辯士として講演會

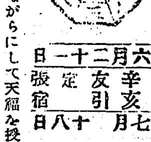
解雇手當を國防費に
牛島人韓さんの赤誠

好間村北好間字椎現堂元唯田川炭礦坑夫牛島生れ高橋清吉こと韓利周(五二)さんは同礦が出水で解雇され、貰つた手當のうちから金五圓を國防費として平署に寄託した



舊六月二十日　日曜　新七月十七日　庚戌　先勝　平　星宿

▲一白　小成に安んじ易く持續心にとぼし奮發すべし▲二黑　多少のほれ折はあれぜも自然の増收あるべし▲三碧　喜びも喜びに終らずまんずる時は過失を生ず▲四綠　靜かに安らかに氣永に辛抱すれば吉日たり▲五黃　平和なれども何となく心の晴々とせざる日▲六白　發避すべき好時機來る多少の隙がいにたわむな▲七赤　運氣は吉なれど仕入物には注意を拂ふべし▲八白　不祥事は無けれども心の落付かざる注意日▲九紫　金談を除く外は何事も順調に運ぶべき日



舊六月二十一日　月曜　新七月十八日　辛亥　友引　定　張宿

▲一白　居ながらにして天福を授かる日平和にくらせ▲二黑　驅卒なつゝしみ居れば益々吉き日となるべし▲三碧　遠方の便り取引は當てにならず失物も注意▲四綠　一念を家事に集中してはげむべし外には不利▲五黃　行く先に苦心はあれども奮闘次第で發展す▲六白　勢力の滿ちたる日き展面にすゝまば大に吉し▲七赤　物を急に仕過るときは却てしつ敗を來すべし▲八白　遅々たる樣に見ゆれども遠慮存外のぶべし▲九紫　金談緣談に手を出すときは口舌を生ずべし

十七日(小名濱測候所發表)　滿潮　前六、二五　後七、四五　干潮　前一、〇五　後一、一〇
十八日　滿潮　前七、一五　後八、一〇　干潮　前一、四〇　後一、四五

●入用●
一、少年工場員
小學卒業程度市内居住のもの、來談あれ
磐城新聞社

吉例土用丑
牛肉大賣出し
二十日土用入丑
滋養、味覺、豐富な牛肉を
平市田町
三二三屋
電話三二三

吉例土用丑
牛肉大賣出し
二十日土用入り丑
滋養豐富な牛肉を是非……
平市田町
石川亭
電話四十三番

暑中御伺ひ
丑の日大賣出し
毎度御引立を蒙り難有奉謝ます
吉例により二十日(土用入り丑)大勉强大賣出し致します
大蒲燒
うなぎ丼
松本樓
電話一一三番
(出前迅速)

土用丑の日大賣出し
榮養の素　味覺の醍醐味
丑の二十日には定評ある『魚榮』の『ウナギ』を多少に不拘是非御用命御願致します
大蒲燒
うなぎ丼
うなぎ
魚榮
電話四二四番
(出前迅速)